

社會主義概観

大正十年移りかけた吾國社會主義運動の一年間と觀望すれば、
 加記騰の心事事件としては、大正九年十二月十日社會主義同盟の茶會
 式及び翌年一月廿二日日本橋常盤本俱樂部に於けた新年宴會と民
 俗層の襲撃事件、同じく廿二日大崎相生亭に於けた自由人聯盟の
 評議會中、中外社員にして又(社員)の役員である村本淳三が民俗
 (會員)に刺殺された、夫れに甘んじ痛憤せし、加藤一天等は強心と逆
 張りの行動を講じ、と云ふ心事、民俗層の根據地たる浅草區と
 傳へ止むべき盛人の氣勢を揚中、到由所故言官と衝突して、年頭早くと
 社會主義運動の飛躍的一面を示した事。並に乃と此の終始社會主義
 者と威赫した民俗層が浅草傳道院に上杉博志、中西三郎、伊藤
 仁太、即等と招き花々一草序式と舉行して、後、社會主義者等の